

## 第2節 常盤構内の立会調査

### 尾山宿舎排水管布設に伴う立会調査

調査地区 常盤地区  
調査期間 昭和59年12月12日  
調査方法 工事施工時における立会調査  
調査面積 約20㎡

調査結果 尾山宿舎は工学部キャンパス正門から南西約300mに位置する工学部職員合同宿舎である。調査は三棟の宿舎棟のうち東端の一棟に付随する排水管等埋設工事に伴い実施した。

その結果、管路西半部では今回の工事基底面である現地表下約80cmまで現有宿舎新営の際の削平により攪乱土の堆積がみられた。また、管路東半部では現地表から厚さ約30cmの攪乱土直下に黄褐色粘質土の地山が検出されたが、遺構、遺物は確認されなかった。

しかし、調査終了後、尾山宿舎とは擁壁を隔てて階段状に約2m高所に位置する北側の畑地において中世のものと思われる土師器片若干を表面採集した。この畑地は耕作土下に厚さ約10~20cmの薄い遺物包含層を介在して現耕作土下約50cmで黄褐色粘質土の地山となっている。また、同宿舎は隣接する南側の民有地に比べ約2.5m高所に位置することから、当該地域周辺は後世の削平により階段状に削平され、各々平坦面を形成しているものと推察される。

したがって、尾山宿舎敷地内においては、とりわけ北端部地域を中心として地山が大規模に削平されているものと思われるが、南部地域においては周辺での遺物の散布状況を勘案して、十分な調査が必要であろうと思われる。(河村)

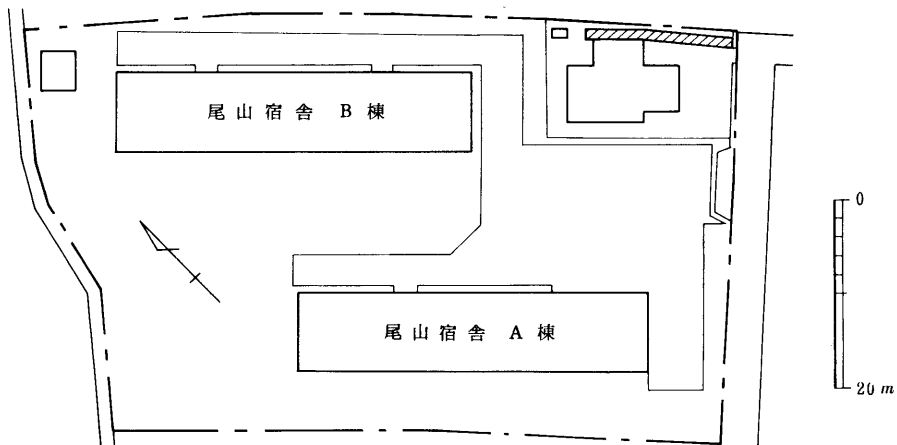


Fig. 33 調査区位置図